

平成25年度 第1回 役員会議事要旨

日 時 平成25年4月10日(水) 10時28分～11時33分

場 所 学長室

出席者 学長, 瀬口理事, 中島理事, 岩本理事, 宮崎理事, 緒方理事

欠席者 なし

陪席者 川上監事, 向井監事, 後藤学長室長

- 学長から, 平成24年度第29回, 第30回及び第31回役員会議事要旨の確認依頼があった。
- 事務局長から, 4月1日付けで着任した幹部事務職員(部長4名)の紹介があった。

【 協議事項 】

- (1) 平成26年度概算要求事項(施設整備費補助金及び施設費交付事業費)について

学長から, 本件は, 平成26年度概算要求(施設整備費補助金及び施設費交付事業費)の事項について協議する案件である旨の説明があった。

次いで, 中島理事から, 部局から要求のあった事項に対し, ①佐賀大学第2期中期目標・中期計画, ②第3次国立大学法人等施設整備5か年計画, ③平成25年度施設整備予算案の実績を踏まえ, 平成25年3月15日の施設マネジメント委員会において審議・選定したこと, 平成26年度概算要求の基本的方針としては, 附属病院の再整備, 耐震性能が低い等安全上支障がある施設の優先的整備, 老朽施設の機能改善及び先端的研究基盤の整備としていること等の説明があり, 協議の結果了承され, 後日開催の経営協議会及び同協議会後の役員会で審議することとなった。

- (2) その他
特になし。

【 報告事項 】

(1) 国立大学法人の中期目標を達成するための計画（中期計画）の変更の認可について

企画評価課長から、本件は、経済学部収容定員の減に伴い、本学の計画（中期計画）の変更を平成25年1月28日付けで文部科学大臣へ認可申請していたものであり、同年3月29日付けで認可された旨の報告があった。

(2) 平成25年度入学者数について

入試課長から、本件について、平成25年度の確定した入学者数の特徴として、学部においては平均充足率103.5%であり、110%を超過したところが1課程であったこと、また、大学院においては平均充足率93.0%であり、90%に達しなかったところが6専攻あったことの報告があった。さらに、入学者数等の前年度との比較の説明があり、大学院の進学希望者が減った原因について、詳細は不明であるが、これまで大手企業への就職を目指していた学部学生が、中小企業への就職を希望したためではないかとの説明があった。

次いで、学長から、理工学部及び経済学部の前期試験、後期試験の実施方法を例に、今後も戦略的な取組をやっていく必要がある等の発言があった。

(3) 平成24年度就職状況について（4月1日現在）

就職支援課長から、本件について、昨年度と同時期での比較説明があり、学部で1.9ポイント増、大学院で2.5ポイント増、総計で2.0ポイント増であったことの説明があり、本日の役員会報告後に公表する旨の発言があった。また、区分欄の「その他・不明」について、対象となる事項の説明があり、昨年度より人数が増加した原因について、一時的な仕事に就いた者等が加わったためである旨の説明があった。さらに、今後も教員に協力いただき就職状況確認を行い、「その他・不明」の数を減らしていきたい旨の発言があった。

学長から、農学部の就職率が低いことについて、その原因等の分析が学部・学科で必要である旨、また、就職状況のデータ作成については、学校基本調査に合わせた形式にすべきではないかとの発言があった。

(4) 佐賀大学とタマサート大学（タイ）との大学間学術交流協定及び学生交流覚書の締結について

国際課長から、本件について、平成25年2月13日に大学間の学術交流協定を締結した旨及びその概要について報告があった。

(5) 佐賀大学とダッカ工科大学（バングラデシュ）との大学間学術交流協定及び学生交流覚書の締結について

国際課長から、本件について、平成25年2月20日に大学間の学術交流協定を締結した旨及びその概要について報告があった。

(6) 佐賀大学とアンザン大学（ベトナム）との大学間学術交流協定及び学生交流覚書の締結について

国際課長から、本件について、平成25年3月11日に大学間の学術交流協定を締結した旨及びその概要について報告があった。

学長から、数年にわたり音信不通の大学等もあることから、今後見直しを検討する必要があるのではないかとの発言があった。

(7) その他

特になし。

【 その他 】

○ 入試改革について

学長から、現在、各学部等で教育の質保証について検討いただいておりますが、4月の教育研究評議会でも議論することとしているが、今後の予定として、①入試改革について、②修学に障害を抱える学生の支援について等の議題でディスカッションを行う予定である旨の説明があった。

特に、入試改革については、企画評価課IR主担当でまとめた、本学における平成25年度合格者の学部別最高点・最低点・平均点〔前期〕〔後期〕のデータを基に、具体例を挙げて説明があり、その後、種々議論があった。

さらに、学長から、今後、各学部等において入試の総括を実施してほしいこと、本学として共通の課題は、各学部等における選抜機能の低下であることが認識されつつあり、原因として少子化もあるが、選抜試験の実施内容について、見直しが必要と思われるため、その問題点・課題等について検討してほしい旨の発言があり、今後各学部及び学務部等で取り組むこととなった。

以 上